

平成28年度

第7回 阿波市教育委員会定例会会議録

阿波市教育委員会

平成28年度 第7回 阿波市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成28年10月24日(月)

開会 午前9時30分

閉会 午前11時10分

2 場 所 阿波市役所 本庁 3階 302会議室

3 出席委員

委 員 長	重 清 由 充
委員長職務代理者	大戸井 美 生
委 員	森 勝 正
委 員	庄 野 憲 二
委 員	西 淵 利 江
委員(教育長)	坂 東 英 司

4 会議出席者

教 育 次 長	後 藤 啓
教 育 次 長	高 田 稔
教育総務課長	猪 尾 正
学校教育課長	成 谷 史 代
社会教育課長	松 原 美 子
学校給食センター所長	野 崎 順 子
(書記)教育総務課係長	原 井 亜 紀

5 付議事項

- (1) 前回会議録の承認について
- (2) 教育長の報告について
- (3) 教育委員会事務事業の点検及び評価について
- (4) 準要保護の認定について
- (5) その他

会議の大要は、次のとおり。

【重清委員長】定例会を開会する旨を告げる。

(1) 前回会議録の承認について

【重清委員長】送付いただいております会議録について何かございますか。

〈質 疑〉

なし

【重清委員長】「前回会議録について」を承認する旨を告げる。

(2) 教育長の報告について

【重清委員長】教育長に報告を求める。

【坂東教育長】9月27日から10月23日までの主だった教育委員会行事について報告。

〈質 疑〉

なし

【重清委員長】「教育長の報告について」を了承する旨を告げる。

(3) 教育委員会事務事業の点検及び評価について

【後藤教育次長】教育委員会事務事業の点検及び評価について説明。

〈質 疑〉

【庄野委員】6ページの社会教育課(7)青少年健全育成事業で断層見学・食の手作り体験開催数1回とあり、参加者39名とありますが、これはどこかの学校が行ったのですか。

【松原社会教育課長】青少年健全育成のために一日体験学習を行っております。市内の小学生を40名募集しました。応募がかなり多いですので、抽選で決定させていただきました。淡路の北淡町野島断層を見学しまして、その後、おのころアイランドで手作り体験をいたしました。

【庄野委員】大体の小学校から応募があったのですか。

【松原社会教育課長】はい。各小学校に通知いたしましたので、大体の学校から応募がありました。

【大戸井委員】日帰りですか。

【松原社会教育課長】はい。日帰りで行っております。

【大戸井委員】日帰りで事業費が130万円ですか。

【松原社会教育課長】この事業のほかにも、各小中学校に6万円の補助を行ってお

り、花づくりや学校の青少年健全育成のために役立てていただいております。また、中学校では講演会を行っておりますのでその講師料も含んでおります。

【森委員】115 ページの広報紙・ホームページの充実というところです。阿波市の広報紙は内容も豊富で結構良いと思っているのですが、C評価となっています。結局、なかなか見てもらえないがために周知したいことが行渡らないというところがあって、これが教育委員会の評価としてCとなっていると思うのですが、Bくらいでもよいのではないのでしょうか。

【松原社会教育課長】この件についてですが、家庭の教育機能の向上に対しての情報提供の充実ということですので、このような結果になりました。

【大戸井委員】105 ページ、国指定天然記念物などに事業費を出されて文化財の継承、保存団体の育成等に努められていますが、一方では、文化財のガイドブックの作成が必要であるにもかかわらずできていないとなっています。本を作るとなると新たにお金もかかりますので、文化財ガイドブック作成の前段階として、ホームページを活用して紹介してはどうかと思います。毎年の評価ができていないとか、寄与していないのであれば、それをどのように解消していくか、来年再来年に向けてどのような計画を立てられているのかということもお聞きしたいですし、ホームページ活用ということも検討してほしいと思います。また、事業の方向性としてはさらに重点化しているのにできていない、大事なのにできていないという矛盾を改善していく計画ということもお考えになられているのでしょうか。

【松原社会教育課長】まずは阿波市のホームページで文化財の紹介をするなど、できることから努力してまいりたいと思います。

【森委員】阿波市は観光に力を入れている側面もあると思うのですが、産業経済部の方で切幡の地元団体と協力して曼珠沙華を植えていますよね。他部局にはなりますが、そういうのとタイアップして文化財の整備や手入れができないものかと思います。前にも大戸井委員から話がありましたが、文化財のところに廃車になった自動車があったり、雑草が生い茂っていたりというのでは、教育委員会に対し市民の受け止め方が残念な受けとめ方をされるのではないかと懸念しています。部局をまたいでとなると難しいと思いますので、できることからお願いしたいと思います。

【庄野委員】51 ページの安全対策の強化の防災教育の充実のところ、平成 27 年度に学校と合同で自主防災組織を立ち上げているのが御所小学校と林小学校で、それぞれ合同防災訓練を行ったということでした。今年も御所小学校は合同訓練を行ったので、私も地域住民として参加しました。重清委員長が挨拶でおっしゃっていましたが、鳥取で地震が起り、あちこちでも起こっています

ので、南海地震の前触れではないかという話もあります。この事業の方向性としてはさらに重点化するとなっていますが、今年度は合同で防災訓練を行った学校は増えているのでしょうか。

【成谷学校教育課長】 御所小学校と林小学校と聞いております。

【森委員】 八幡にもできて、3つできていると聞いていますが。林地区の方が進んでいるということで、6月19日に活動の様子についての話を伺う講演会を開催しております。

【後藤教育次長】 市としまして、危機管理課が中心となって地域の防災組織を立ち上げて、それを小学校区単位で広げて市全体の連合会組織にするということが最終目標と聞いております。しかし、自主防災組織ができていないところもありますので、できていない地域は重点的に危機管理課の方で進めていくということです。やはり、林や御所のように自主防災組織連合会ができているところは意識も高いです。

【重清委員長】 林で最初に自主防災組織を立ち上げた時にはかなりの人数が集まって、90歳代のお年寄りまで集まってくださり、倒壊家屋に埋まっている人の救助にも「私にもできるんですよ。」と進んで実践されていました。それが2年目3年目となると、人数もちょっと下火になってきているのですが、毎年いろいろと趣向を凝らしてされています。1回したからいいのではなくて、いつ起こるかわからないけれども、その時にすぐ自分が何らかの役割を果たせるように、年1回の防災訓練には積極的に声かけをして、できるだけ多くの方に参加していただくようにしないと人任せではいけませんのでね。

【後藤教育次長】 阪神淡路大震災等震災の経験を踏まえて、こういった地域の防災が大切であり、制度として確立されてきていますが薄れてきますよね。

【重清委員長】 最初は炊き出しをして、次は非常時のレトルトを使用したりいろいろ工夫されています。地区ごとに自治会長や防災担当の方が集まって計画を立てておられるので、全地域で積極的になされたらいいなと思います。50ページの不審者情報の件ですが、付近学校への情報提供が十分でないようなことを学校に行った時に聞きました。近くで事件があつて、新聞にも出た、テレビのニュースでも出たのに、学校には連絡がなかったということがあったようです。警察署と連携して、各学校で防犯教室が実施されていますよね。そういった時に、不審者情報の提供をしていただきたいということを直接警察の方へお願いできるのですよね。

【後藤教育次長】 不審者情報については、青少年育成センターで状況を把握した段階で各学校へはファックスで情報を流しています。ファックスでの情報提供ですので、見るまでのタイムラグはあるかと思います。

【坂東教育長】 小さなことでも情報提供はしていますので、ニュースになるくらいなら当然連絡はしていると思います。

【大戸井委員】 高校との連携はできているのですか。阿波高に不法侵入した者が捕まった事件がありましたが、その時、小学校の保護者の方は知らなかったというお話を聞きました。

【後藤教育次長】 育成センターは高校も関係していますので、育成センターか警察に情報が入れば連携して情報共有はできているはずですよ。

【高田教育次長】 育成センターに入った不審者情報というのは、なかにはいたずら等もありますので、警察と連携しながら、すべての幼稚園・小学校・中学校・高等学校に情報を送るようにしております。土日関係なくファックスで情報を送っています。

【森委員】 各学校でもその情報を受けて、メール配信体制ができている学校でしたら、その内容をほぼ同じような感じで携帯へ送るので、時間的にはかなり早く保護者へ周知できるようになっていると思います。メール配信の場合は、加入していない人にはもちろん情報が来ませんので知らないという人もあるかもしれません。ほとんどの学校でメール配信できるシステムは整っているだろうとは思いますが。

【大戸井委員】 不審者情報もそうなんですけど、今後大きな災害があつて、全部の学校に一斉に連絡をしないといけない場合、何か対策を考えられているのですか。

【高田教育次長】 学校安全教育というのは、子どもたちがいかに自分の命を守るかということがメインの目的と考えております。今回、鳥取で地震が起きた際、徳島では震度 3 でした。地震が起きた直後、全ての学校で頭部を守るために机の下に避難するということが大原則です。揺れが収まって、校庭に避難した学校が小学校 10 校中 5 校でした。1 校は遠足の学校もありました。中学校は半分です。幼稚園はかなり園庭に避難しておりました。基本的に、そのあたりの対応というのは、学校で臨機応変に対応することがベースです。ただし、大きな災害が起きた場合で、例えば震度 5~6 の地震が起きた場合、その次の対応として定めている学校もあります。登校中に地震が起こるのが大体 7 割から 8 割と言われております。もちろん、登下校中や家庭で起こるということもありますので、そういったこともある程度考えながら安全教育を徹底していかなければならないと思っております。今のところ、教室の中で自分の身を守って、避難するしないは学校の臨機応変な対応になっているところではあります。私が思うのは、学校そのものの耐震工事ができておりますし、避難場所に指定されているところもあります。ただ、非構造部材でガラスの周辺は危ないというよ

うなことを先生方が指導していくことは大事だと思います。

【坂東教育長】この度の地震で、みなさんも携帯が鳴ったと思います。先生方も登録はされていると思いますので、こちらからお知らせするのではなくて、一斉にみんなが地震に警戒せよというような情報は伝わっていると思います。

【森委員】私が現職の時、地震が発生するまでにパソコンか何かで情報を自動的に受信し、一斉配信して、地震が来る前に身構えられないだろうかと思い、どうにか体制づくりができないものかと当時の教育長にお話ししたことがありますが、それは無理だとは言われました。なんとか地震が来るまでに各学級や運動場に放送して、揺れるまでに身構えて判断する時間が数秒でもほしいと思います。

【重清委員長】31 ページに中学校オープンスクールに参加というのがありますが、小学生が行った時には授業も見せてくれますよね。そういった時に、交流学习でICTの活用というのがあれば、小学校でICTを使った授業が活発に行われていますので、オープンスクールにこそICTを盛り込んだ授業をしていただければありがたいと思います。39 ページ適応指導教室の運営の不登校児童生徒の学校復帰や社会的な自立の支援というところで、不登校の原因が先生にあるのか、親にあるのか、子どもにあるのかそれぞれに違うと思うんです。しっかり聞き取り調査をして、指導が必要なのは親であるか、先生であるか、子どもであるかということも的確に判断した上で、解決に導いていかなければならないと思います。

【高田教育次長】不登校の問題というのは、全国的に大きな問題であります。不登校の原因は多種多様であり、学校生活や家庭生活に起因するものであるとか、本人が不安や悩みを抱えていたり、病気などもあり、解決することが困難なこともあります。学校には臨床心理の資格を持ったスクールカウンセラーが必ず配置されております。また、県のライフサポーター事業といって、要請があれば臨床心理学を学んでいる大学院生を派遣してくれる制度があります。さらに、総合教育センターには教職員が個別に相談できる窓口もあります。様々な専門機関を活用しながらそれぞれの状況に対応しているところであります。

【重清委員長】41 ページにある巡回指導員というのは、こういった役割をされているのですか。

【高田教育次長】これは、例えば特別支援が必要な児童生徒に対して、支援学校の専門の先生が個別に先生の相談にのるために巡回して指導していただける制度です。もちろん、先生、児童生徒、保護者等対応も含めて相談・指導していただける制度です。

【重清委員長】特別支援に関連してですが、46 ページの専門家による相談という

のは全学校で実施されているのですか。

【高田教育次長】それぞれの学校で一番大事なものは、担任との関わりだと思います。しかし、十分でないところに関しては先ほども申しましたとおり、臨床心理士の方に相談するようにしております。

【重清委員長】学校によって対応が違って、保護者の方が不安に感じたりする場合もあるので、できるだけ専門の方に相談してアドバイスをいただくということが大事でなかろうかと思います。49 ページ、通学路歩道自転車走行可能場所の指導徹底ということで、この間の総合教育会議でも市長に指摘されたと思いますが、中学生の登下校時に自転車を通れる歩道があるのに通らずに帰っている現状があります。中学生の事故も多いですし、安全に登下校できるように各学校の徹底した指導が必要だと思いますが、通学路の点検というところに関係ないのでしょうか。

【高田教育次長】大事なことですので徹底してまいります。

【重清委員長】124 ページの米づくり、芋づくりなどの農業体験学習ですが、阿波っ子スクールを以前見せていただいた時には、野外での農業体験をされているようなお話だったと思います。評価はCとなっていますが、これはどうなのでしょう。

【高田教育次長】この件に関しましては、訂正が必要かと思います。今のところ目標達成度も十分できていると思いますので、再度確認いたします。

【重清委員長】129 ページも評価はCですが、どのような交流に努められるのでしょうか。今後の課題はどうでしょうか。

【松原社会教育課長】国際交流の課題が、国際交流活動の促進、外国人との交流ということで、これは生涯学習に関する国際交流であります。阿波市は国際交流協会を立ち上げていませんし、他の自治体のように姉妹都市があれば外国人との交流というものもあるのですが。現在、社会教育として行っているのはALTの先生を活用した一般の英会話教室を行っているだけとなっていますので、外国との国際交流活動にさらに取り組むというようなことで考えております。

【後藤教育次長】国際交流協会組織を改めて立ち上げるかどうかというところから検討していく必要があるのかなとは思いますが。

【森委員】学校関係であれば、県に国際交流がしたいと申請をすればいろんな国の方を紹介してくれます。そういうところを社会教育に活用できないものなのでしょうか。これは学校だけですか。

【成谷学校教育課長】トピアというところに申し込みをすれば派遣してくれます。学校以外でも大丈夫だと思います。

【森委員】定期的に来てもらうのは難しいですが、いろんな文化やことばについ

て話をしたりして交流できればいいのですが。

【松原社会教育課長】ありがとうございます。早速問い合わせてみます。

【大戸井委員】健康診断の件でよろしいでしょうか。平成15年度から色覚異常の検査がなくなりましたよね。希望があればされているとは思いますが、例えば、授業で色が見えにくいとかわかりにくいといった調査や報告を基にした配慮というのは今までないですか。就職の時になって、自分はこの道には進めないとか就職できないといったことが少し問題になっていますので。現状で言えば、授業で先生がしてくれているものがわかりにくいとか、そういった影響はないでしょうか。

【高田教育次長】本当に大事なことだと思いますが、私自身把握できておりません。先生の意識や子どもたちの実態を把握しながら今後の教育活動に生かしていかなければなりませんし、進路保障もしていかなければいけませんので、早急に状況を把握します。ありがとうございます。

【成谷学校教育課長】今年度から健康診断項目が1項目増えました。成長曲線というものが入りまして、身長・体重がどのように伸びているのかというところを診たり、整形の部分についても診てもらおうようになっています。

【森委員】帝國書院でしたか、色覚に配慮した地図づくりをしておりますということは数年前から既に言っておりました。特に、地図は限られたところにいろいろな情報が盛り込まれていて非常に見にくいですので、そこに配慮した色使いにしていますと言っていました。教科書なんかはその辺の理解が広まっていると思うのですが、学校で教師が提示するものについてはまだちょっと。

【重清委員長】巻末の学識経験者の所見では、大村先生と佐光先生が本当に詳しく見てくださり、感じられた思いが綴られております。私たち委員も同じ思いであります。各事業について、できるだけご検討いただき、評価がCからBへ、BからAへ向上しますように、大変なご努力が必要かと思いますがよろしくお願いたします。

【重清委員長】「教育委員会事務事業の点検及び評価について」を承認する旨を告げる。

(4) 準要保護の認定について

【成谷学校教育課長】準要保護の認定について説明。

〈質 疑〉

なし

【重清委員長】「準要保護の認定について」を了承する旨を告げる。

(5) その他

【重清委員長】委員、事務局に何かあるか尋ねる。

本日の議事が全て終了したので、閉会する旨を告げる。

閉 会

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成28年10月24日

委 員 長

委員長職務代理者

委 員

委 員

委 員

教 育 長

教育総務課係長